

花うさぎの「世界は腹黒い」2

日本が普通の国になるように。産経新聞を応援しています。



既に発売されてから三ヶ月以上も経過していますが、尊敬する金美齡女史の最新刊「凛として日本人 何を考え何をなすべきか」のご紹介です。「凛として」という言葉は、ご自身に一番似合いそうですね。私は金美齡女史が大好きで、真性保守内閣実現の折には外務大臣をお願いしたい、と真面目に考えているくらいです。

評論家として紹介されることが多いようですが、彼女は台湾で日本人として生まれ、台湾独立のために戦い続けてきた筋金入りの闘士ですよ。それが最近になって日本人に帰化してくれた、それも「日本を守るために闘う」ために。日本軍としては百万の味方を得た思いです。堂々と日本人のだらしなさをしかってくれる数少ない人でしょう。

安倍政権が誕生したとき、反日軍はもちろんのこと、日本軍の識者や評論家まで、時間と共に批判と非難を強めていたなかで、最後までぶれることなく支持を明確に打ち出していた数少ない人物が金美齡女史でした。大体、待望の真性保守政権が誕生したというのに、すぐに行動と結果を求め、意に沿わないと叩くというのは、本当にそれでも保守の識者かと、当時はかなり頭にきたものでした。

ようやく、やっと誕生した奇跡のような内閣を、しっかりサポートして支援し、育て、目標に向けて一步一步、現実の諸課題をこなしながら共に歩もう、という「**当事者としての現実的な発想**」がないのですね。失ってから「短命だったが良くやった」などと人ごとみたいなことを言っている。そんな反日軍でも日本軍でもない第三者のような立ち位置の人なら必要ありません。覚醒した一般の人の方がよほどまともでしたよ。

もう誰もがご覧になったと思う、伝説の靖国演説の動画を何回か記憶にありませんが貼り付けました。日本人は余りにも「闘う」ことに臆病すぎました。私たちの日本がいよいよ危ない、瀬戸際にまで追いつめられているときに、闘わずしては守れるわけがありません。この非常時にあって金美齡さんの存在は本当に有り難いと感謝しています。

参考までに目次の詳細と、「あとがきに代えて」から一部を抜粋して掲載しました。

序章 日本社会を覆う「偽善」と闘え

- 被災地の人々の状況を思えば...
- 死と生は常に隣り合わせにある
- 「運命から学ぶ」ということ
- 石原慎太郎氏の「天罰」発言の真意
- 「権利」ばかりが謳われ、「義務一が忘れ去られた」
- 「自助」の精神が日本人の中から失われている
- 神ならざる人間の分際

第一章 大震災に立ち向かった平成日本人

- 整然と耐え、他者に迷惑をかけない自制心
- 運命を分け合う者の強さ
- 定年前に志願して福島へ向かった電力会社社員
- 自衛隊「史上最大の作戦」の背後にあったドラマ
- 命をかけて避難を呼びかけ続けた乙女たち
- なぜ自己の安全を図るより他者の身を案じたのか

第二章 愚かな政治指導者を戴く国民の不幸

- 菅直人首相にとっての「3・11」
- 二〇を超えて乱立する「対策組織」
- 国家的有事に対応できる政党だったのか
- 使命を遂行した見事な日本人たち
- 体を張っている消防隊員を安全圏から恫喝する大臣
- 自衛隊に対する首相の言葉は「赤心」からのものか
- もはや「政治主導」「脱官僚」は求められていない
- 「今必要なのは政権交代ではないか」
- 日本国民はすでに「不信任」を突きつけた

第三章 日本人の精神的な礎

- 復興への心の拠り所となる天皇陛下の「お言葉」
- 天皇、皇后両陛下が率先して示されていること
- 被災者を勇気づける「理屈を超えた力」
- 自分には何ができるか
- リーダーにおける“非常時の決断”
- 自衛隊員の名譽を奪ってきたのは誰か
- 「天譴」(てんけん)の意味を再考する
- 大震災が私たちに問いかけている根本問題

第四章 ネット・コミュニケーションの功罪

- 台湾からの支援に「情けは人のためならず」を実感
- 中国に配慮して台湾隊受け入れをためらった？
- 「外省人」による的外れなメールも
- 「銀ちゃん」なる人物の下種の勘ぐり
- 便利さに慣れ切ってしまうことの怖さ
- 運を保証することは誰にもできない
- 当てにできる人間関係はネット空間で築けるか
- ツイッターをしながらのテレビ討論庁！？
- ネット社会は「両刃の剣」

第五章 「国家」なくして「個人」なし

- 「北朝鮮や中国が攻めてくるわけじゃないじゃん」
- 「日本国」のパスポートに感謝しなさい
- ホリエモンの頭の中には「国家」がない
- 東浩紀氏の能天気かつ無責任な「言いたい放題」
- 「お天道様に恥じない生き方」の何が悪い
- 日本人が忘れてはならない「ものづくり」の心
- 目的を見失った経済活動は「藪枯らし」にすぎない

第六章 愛国心の本質

- 「地球市民」など存在しない
- 「家族、同胞を守り、郷土を救う」思い
- 砂中に頭を埋め、飛び立とうとしない駝鳥
- 「国のために何か貢献したい」と思わない中・高生
- 「天譴」の前兆はあった
- 日本の加害者性を強調して中国を擁護した官房長官
- 中国人に一步譲ったら、二歩攻め込まれる
- 中華思想という厄介な“信仰”
- 日本の動向を注視してきた東アジア周辺国の胸中
- 「支援」の一方で、日本の領土を脅かす中・口・韓

第七章 日本のメディアは病んでいる

- 歪んだ不健康な意識
- 「中国警戒論」は感情論にあらず
- 「日本側に問題がある」という奇妙な主張
- 歴史の事実を曲げた「NHKスペシャル」
- 中国の「台湾併呑」の野心に加担する偏向番組
- テレビが「弱者」を増やしている (次ページへ)



『花うさぎの「世界は腹黒い」』お勧め動画
マスコミが報じない正しい歴史、日本が好きなのは必見！
「凛として愛」「氷雪の門」「誇り～伝えよう日本のあゆみ～」
「めぐみ」「日本がアジアに残した功績」「真実はどこに...」

iza プログランキング
【全体】4位 【政治】1位
(2011年10月8日時点)

年越し派遣村の人たちの甘えきった態度
暖衣飽食のなかの利己主義が大手を振っている

第八章 それでも「無縁社会」「おひとりさま」をお望みですか

独身者があふれる社会の末路
「個人」と「家族」は対立関係に置くものなのか
「おひとりさまの老後」は明るい?
私たち夫婦は「二人で一人」だった
結婚や家庭を敵視することの馬鹿らしさ
「希望」さえ他人から与えてもらうつもりか
奇を衒った教育論や言説で若者を惑わす大人の罪

あとがきに代えて

日本人の底力の源泉
母国語をもっと大切にしよう
世界への発信力を高めるためのセンス

日本人の底力の源泉

(前略)講演で全国を旅する私は、日本は本当に美しい国だと思っ
ている。新幹線で西に下るときは必ずD席を所望する。天気の良い日は富士山が見えるからだ。飛行機が羽田を飛び立つと、間もなく富士の頂が見えることがある。なぜか右に見えたり、左に見えたりする(中略)。その日は一日気分がよい。世界中に山は沢山あるが、あれほど均整のとれた見事な美しさを誇る山は富士以外にはない。

先年、伊勢神宮に参拝し、神職の方に案内いただいた。見事な森の緑に感嘆の声をあげたら、式年遷宮に備えて長野県でも植林していると話された。八十数年前に始めたが、遷宮を自前の木で賄うには、あと百二十年はかかるという。普通なら気が遠くなるような時間だが、いとも当たり前のように言う。

日本という国が未来永劫続くと思っていなければ、そんな言葉は出ない。いや、この国が未来永劫続くということが自明の理でなければ、事もなげにそんな言葉は口に出るはずもない。静かな口調のなかに強い決意が内在している。私は、日本人の底力の源泉が奈辺にあるかを見たような気がした。(後略)

母国語をもっと大切にしよう

未来永劫、この美しい国を守り育てるには、日本人一人ひとりが何がしかの役割を引き受けなければならない。国が自分に何をしてくれるかではなく、自分が国に何を貢献できるか。実は、この美しい国を傷つけた大震災は、国を想い、国を守るという日本人ならば自明の姿勢を呼び醒ましたのである。

もちろん、守るべきは国土だけではない。日本人は自らのアイデンティティを確認し、それを守っていかなければならない。そのために、私は二つのことを述べておきたい。

一つは、母国語(国語)である日本語をもっと大切にすることだ。国語教育の充実よりも、英語を第二公用語にしようという議論が先行することは誤りである。そもそも、外国語を使える能力はその人の母国語の能力に比例する。どんなに習得に時間をかけても、自分の母国語に見合う程度の外国語しか習得できない。基本はあくまでも母国語なのだ。

人は言葉によってものを考える。言葉が豊かになればなるほど思考も豊かになる。言葉が貧弱であるということは、思考力が貧弱であるということになる。だから、まず母国語を大切にしない国民は、所詮薄っぺらなメンタリティしか持ち得ない(中略)。

と同時に、もう一つ、日本は世界に向けてより強い発信力を持たねばならないと思う。暗黙のうちに誠意を示せば相手はわかってくれると言う発想は日本人同士にしか通じない。これからの日本人は説得力を身につけ、発信する力を磨かなければならない。そのためには日本語の特質をわきまえておくことだ。

作家の林秀彦氏が、アングロサクソンにとっての言葉は武器であり、曖昧なものを排し、交渉して他者を説得するというのが基本的構造だが、われわれの日本語が武器だったことはない。日本語は歌であり、いま「歌の言語」と「武器の言語」が向かい合っている一と語ったことがある。

そうなのだ、たしかに日本語は武器にはなりにくい。だが、それでよいのである。思想やマインドを変える必要もない。それこそ日本的な価値観、ナショナルなものが根幹にないのであれば、相手との交渉も、闘いも必要ないのだから。ただ、それができるプロフェッショナル、エリートを日本人は持つべきだと思う。さらに仕事であれ、政治交渉であれ、それに付随する社交をどれだけスマートにこなせるかというのも問題になる。

ちなみに、麻生太郎元首相が就任早々の平成二十(二〇〇八)年九月、国連で演説しているときに翻訳システムに障害が発生した。彼は「これは日本製ではありませんね」ととっさに英語でジョークを発し、会場を笑いと拍手の渦で満たしたのだが、実に見事な機転だった。

このセンスと余裕は指導者として得難い資質だが、麻生氏がホテルのバーを度々利用していることを、「世襲、金持ち、贅沢……したがって庶民の苦しみは理解できない」とばかりにマスコミが野党を巻き込んで行ったバッシングでイメージダウンさせたのは、本当に愚かなことだった。

G8のメンバー国である日本のトップが庶民と全く同じ生活しか知らずに、サミットでまともな発言ができるのか。マスコミは庶民感情の負の部分的刺激して指導者を追い落とすような真似は慎むべきだ。
(後略、PHP研究所 凛とした日本人 P198-P202から抜粋)



何回聞いても素晴らしい!
YouTube 金美齡女士 於 靖国神社
【動画コメント欄より】
感激です! あなたは強く、愛情に満ちている。
この方の考えていることは日本人の本音です。
金さん、ありがとう! 再生回数32万回突破!

コチラの本もお勧め!

金美齡さんの公式HPでは、東日本大震災の際の台湾からの200億円以上という多額の支援金に感謝する「オリジナルTシャツ」を発売中です。詳細は金美齡さんHPへ

<http://www.kin-birei.com/>



『花うさぎの「世界は腹黒い」』お勧め動画
マスコミが報じない正しい歴史、日本が好きなのは必見!
「凛として愛」「氷雪の門」「誇り~伝えよう日本のあゆみ~」
「めぐみ」「日本がアジアに残した功績」「真実はどこに...」

iza プログランキング
【全体】4位 【政治】1位
(2011年10月8日時点)